



東北大学



平成 26 年 5 月 29 日
東北大学大学院医学系研究科
大崎市民病院

先制医療の研究・診療に従事する優れた専門的人材育成の連携

—超高齢化が進む地域における社会的要請に応える研究・教育活動を推進—

東北大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」）と大崎市民病院は、先制医療の研究・診療拠点として世界をリードするとともに、先制医療の研究・診療に従事する優れた専門的人材育成を行い、超高齢化が進む地域における社会的要請に応える研究・教育活動を連携して推進するために、基本協定及び連携講座に関する協定を締結いたします。

背景:

急速なスピードで少子化と高齢化が進行しているわが国では、医療費や介護費用が今後さらに増加することから、社会保障体制の持続可能性が懸念されている。そこで国民の健康寿命をできる限り延ばすことの重要性が叫ばれていることは、厚生労働省「健康日本21（第2次）」や同「健康寿命が延伸する社会に向けた予防・健康管理に関する取組」などで示されている通りである。

高齢者の健康寿命を損ねて要介護状態の発生をもたらす疾患（脳血管疾患、認知症、骨関節疾患、がんなど）は、遺伝素因と環境因子（生活習慣・行動など）との相互作用により長期にわたって進行するため、発症前の無症候期であっても生体の構造や機能に変化が生じ始めていることは既知の事実である。

そこで、症状が出現する（発病する）前の「未病」の段階から治療介入することで発病を防ごうとする試みが「先制医療」として注目され、国における新しい医学研究の方向性として提案されている。独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センターによる報告書「戦略イニシアティブ 超高齢社会における先制医療の推進」は、「臨床症状がなく通常行われる検査所見でも異常のない発症前期に、バイオマーカーを用いて疾患の発症をある程度予測し、対象を限定して早期に治療介入を行うことを目指す新しい医療の方向性」として先制医療を提案している。なおバイオマーカーとしては、尿・血液などに含まれる生体由来物質（ゲノム、エピゲノム、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボロームなど）に加え、PETなどの画像、心電図、骨密度など、様々な指標が想定されている。

本研究科は、脳血管疾患、認知症、骨関節疾患、がんなど、高齢者の健康寿命を損ねる疾患に関連した各分野において、これまでに大きな研究成果を挙げるとともに、その診断と治療に従事する優秀な人材を育成して、社会からの要請に応じてきた。しかし、高齢人口の急増、治療から予防へのパラダイム・シフト、次世代ゲノム医療や個別化予防の展開、大学で得られた最新の知見・技術を地域に応用することの重要性、地域医療圏における中核的病院の位置付けの強化など、本研究と地域を取り巻く環境には大きな変化が見られている。そこで、地域における中核的病院との連携のもとで、先制医療の技術開発と地域展開、そして人材の育成を図るものである。

平成25年4月に公示された第6次宮城県地域医療計画は、4つの二次医療圏（仙南、仙台、大崎・栗原、石巻・登米・気仙沼）を定めている。このなかで高齢化が最も進んだところである大崎・栗原医療圏では、

高齢者の健康寿命延伸に対する社会的ニーズが最も大きい。

また、大崎市民病院本院は、40診療科目と456病床を有し、宮城県大崎・栗原医療圏における中核的な病院と位置付けられており、平成26年7月に予定される新病院の開院を機に宮城県北部の地域医療に果たす役割はさらに強まるものと思われる。同病院には131名の医師(常勤医師86名と臨床研修医45名)が勤務(平成26年4月1日時点)し、学会発表や論文発表も活発に行っており、診療と研究の双方において申し分ない実績を有している。また、本研究科との間では、診療面でも研究面でも日ごろから緊密な関係が築かれている。

平成6年に大崎保健所管内の1市13町の国民健康保険加入者を対象に始められた「大崎国保加入者コホート研究」と平成18年の市町合併に伴う大崎市の発足を契機に行われた「大崎コホート2006研究」は、ともにわが国を代表する大規模コホート研究であり、本研究科と大崎市との連携のもとで、予防医学に関する国際的な研究成果を発信している。さらに、大崎市は東北メディカル・メガバンク機構のコホート調査の対象地区にもなっている。

このような背景から、本研究科と大崎・栗原医療圏の中核的病院である、大崎市民病院との間で、先制医療の研究とその研究成果の地域展開、また先制医療を基盤とする地域医療従事者育成の推進のために、連携に関する基本協定を締結することは重要である。

講座（宮城県北先制医療学講座）設置の概要：

宮城県北部地域では人口高齢化が急速に進んでおり、健康寿命を損ねて要介護状態の発生をもたらす疾患（脳血管疾患、認知症、骨関節疾患、がんなど）が増加しているため、それらを治療することに加えて、「未病」のうちに先制的に疾病を予防する技術の開発が急務となっている。しかし、先制医療の技術は未だ開発途上である。

医療技術を開発するには、基礎研究から臨床研究への橋渡し（トランスレーショナル・リサーチ）を経て、地域へと展開させる必要がある。そのプロセスのなかで、本研究科は基礎技術（発病予測システム）と先制医療技術（予防治療）の開発を主に担当し、大崎市民病院はトランスレーショナル・リサーチと地域展開を主に担当する。

そこで、（1）健康寿命を損ねて要介護状態の発生をもたらす疾患（脳血管疾患、認知症、骨関節疾患、がんなど）の病態解明と発病予測システムに関する基礎的研究の推進、（2）先制医療の技術開発に関する基礎的研究とトランスレーショナル・リサーチの推進、（3）先制医療の地域住民における効果検証と地域展開、（4）これらのプロジェクトに従事し、先制医療学に精通した地域医療医の育成を目的として、本研究科に「宮城県北先制医療学講座」を設置する。

連携協力の形態と範囲：

基本協定に関しては、次に掲げる事項について、平成26年6月から連携協力を行う。ただし、協定を終了する場合には、終了しようとする前年度まで両機関同意するものとする。

1. 共同研究の推進
2. 人材育成の推進
3. 研究者の相互交流
4. 研究設備の相互利用
5. 研究資源の相互利用
6. 知的財産の管理活用
7. 関連する研究成果などの情報交換
8. その他両者間で合意した事項

東北大学大学院医学系研究科に次の連携講座を設置する。

名称：「宮城県北先制医療学講座」 Preemptive Medicine in the Community of the North Miyagi

教員構成： 客員教授及び客員准教授

教育場所： 東北大学大学院医学系研究科と大崎市民病院本院

(お問い合わせ先)

東北大学大学院医学系研究科 教授 (公衆衛生学分野)

辻 一郎 (つじ いちろう)

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2番1号

TEL: 022-717-8123

FAX: 022-717-8125

E-mail: tsuji1@med.tohoku.ac.jp

大崎市病院事業管理者

阿部 健雄 (あべ たてお)

〒989-6183 大崎市古川千手寺町2丁目3番10号

TEL: 0229-23-3311

FAX: 0229-23-5380

E-mail: tateo-a@h-osaki.jp

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

稲田 仁 (いなだ ひとし)

TEL: 022-717-7891

FAX: 022-717-8187

E-mail: pr-office@med.tohoku.ac.jp